



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成28年6月25日(土)

Vol.330

ガン劇的寛解例とは
(長期生存者に共通する食生活)

秋元 秀夫

昨年11月6日夜、東大病院にて医師向けに開かれたガン講演会は驚きのざわめきに包まれました。

講師は元京都大学大学院医学研究科教授で、現在は京都「からすま和田クリニック」院長の和田洋巳氏でした。ユニークなガン治療を実践している人物であります。「私は今の標準ガン治療の方向は間違っていると思っております。寛解とは治癒をしたかどうかは別として、ガンが憎悪しない状態が続くことです。ガンが宿主の命を奪うことは転移巣が増大して臓器が機能不全に陥るからであります。圧倒的大多数のガン治療医は手術で臓器を取り除き、抗ガン剤、放射線でガンを叩きます。しかし患者は手術後の後遺症、抗ガン剤の副作用で苦しめられ、次々と亡くなっていきます。こうした治療を改めないのは、治療医の怠慢と傲慢であります。ガン細胞は正常細胞の遺伝子に変異したものです。遺伝子変異を起こす原因はタバコなど、日々の生活習慣や食生活が起因であります。食生活による微細環境は5つのファクターがあります。第1はナトリウム(塩分)によってプロトン(乳酸など)が排出され、微細環境が酸性化に変えられ、ガンが増殖しやすくなるので、塩分の少ない食生活が必要であります。第2のブドウ糖は生

きるためには欠かせない成分ですが、必要量を越えるとガン細胞増殖の大きなエネルギーになります。白米の大量摂取は血糖値を上昇させるので、玄米をすすめます。第3はIGF-1ですが、牛乳・乳製品に大量に含まれております。このIGF-1は強力な成長促進物質で細胞分裂を増進する大きな力をもっておりますが、ガン細胞の発生・増殖にも同じ作用を持っており、女性のガン患者には甘い物(ブドウ糖)・乳製品を大量摂取している患者が驚くほど多いのです。第4の脂肪酸は新たに生まれるガン細胞の細胞膜を形成する原料であります。犯人は脂肪酸合成酵素とされておりますが、梅をはじめとする果物類にこの合成酵素を抑制する生理活性物質が多く含まれておりますので、普段の食事の際には果物を多く摂るよう勧めております。第5のNF-KBは細胞周辺の炎症を発生増殖させる物質でこの炎症はガンの発生や増殖に深く関与しております。要するに炎症があるとガンが発生・増殖しやすくなるのです。あくまでも補助的なものですが免疫力をあげるためには、茸類に免疫成分が多く含まれておりますから私は茸類を潰して取っただし汁で玄米を食べることをすすめております。玄米と茸を同時にとれば一石二鳥です。」(文芸春秋・6月号 凡8,000字略)

私も先月MRIで膵臓に4mm位のガンらしきものがあると言われ、いよいよ来たかと全く驚きませんでした。昨日よく調べたら単なる凹凸と言われ、この文を転記しました。むかし貞元に平田先生という評判の名医がおられて、「よく食い、よく飲み、よく動き、いっぱい排泄すれば免疫性を持った病気に強い体になれる」と教えられたことがあります。ストレスを作らず、免疫性を持たれてよい夏をお過ごし下さい。

健全経営の源は『健康』ですから…